琉球大学学術リポジトリ

沖縄DMOセミナー特別講演会：沖縄観光の質への転換は可能か？：DMOに求められる人材と機能

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学大学院観光科学研究科 公開日: 2019-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯島, 祥二, 桑原, 浩, 金城, 盛彦, Iijima, Shoji, Kuwahra, Hiroshi, Kinjo, Morihiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002011983

観光科学　第 9 号　（平成 31 年 2 月）pp.35-51
Journal of Tourism Sciences. Vol.9 (February, 2019)

沖縄 DMO セミナー特別講演会

沖縄観光の質への転換は可能か？
～ DMO に求められる人材と機能～

本講演会は, 株式会社 OTS サービス経営研究所と, 琉球大学大学院観光科学研究科が共同で設置した,「沖縄 DMO セミナー in 沖縄実行委員会」の主催で企画されました。その趣旨は，2017 年に入域観光客数が 939 万人となり，目標だったハワイの観光客数を初めて上回ったものの，平均滞在時間や消費額では依然として及んでいません。また，観光の急速な拡大により浮き彫りになる様々な問題や課題を解決する上で中心的役割を果たす組織として近年，益々注目を集める「DMO（Destination Management Organization）」について，国内外で活躍する米国の州立セントラルフロリダ大学の原忠之准教授，および首都大学東京清水哲夫教授のお二人の識者をお招きし，事例をまじえそこで必要とされる人材と機能について，お話をうかがう予定でした。しかし，開催日の 9 月 28 日（金）に沖縄地方が台風 28 号の直撃を受け，多数の事前参加希望者の登録があったにもかかわらず，中止となってしまいました。

そこで，少しでも講演会に代わり得るものとして，ここでは，両識者より事前に預かっていた同日の講演資料を提示させて頂きたいと思います。

沖縄 DMO セミナー in 沖縄実行委員会
琉球大学観光科学研究科
実行委員長　飯島　祥二
実 行 委 員　桑原　　浩
金城　盛彦

【登壇（予定）者プロフィール】

原 忠之（はら ただゆき，1960 年～）

・セントラルフロリダ大学ローゼン・ホスピタリテイ経営学部
（学生数全米第 1 位（2,600 名）の名門）福学部長･准教授（「ファイナンス」,「観光産業定量分析」等担当）兼デイックポープシニア観光研究所主席研究員。コーネル大学，スイス・ローザンヌホテル経営学校でも教鞭をとる。

・博士（主専攻：ホテル経営学，副専攻：地域科学，平和学）。

・2009 年時点で北アメリカ唯一の観光・ホスピタリテイ系日本人正規教員。
上智大学法学部卒業後，日本興業銀行（外国為替部課長他），外務省中東アフリカ局中東第一課課長補佐等 を歴任。コーネル大学大学院，英グラモーガン大学大学院等で学ぶ。
観光統計に関する国際動向調査検討委員等観光庁アドバイザーや，英文学会誌の編集委員等の要職を歴任。
『 Quantitative Tourism Industry Analysis: Introduction to Input-Output, Social Accounting Matrix

Modeling and Tourism Satellite Accounts』（2008）や『数量観光産業分析―観光学の新たな地平―数量観光分析入門』（2014）等著書，論文多数。

清水 哲夫（しみず てつお）

1995 年 3 月東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修士課程修了、2002 年 5 月博士（工学）（東京工業大学）取得

1995 年 5 月東京工業大学工学部助手、2001 年 6 月東京大学大学院工学系研究科助手、2003 年 4 月同助教授、

2007 年 4 月同准教授、2011 年 4 月に現職．2010 年 4 月から 1 年間ローマ大学持続開発研究センター客員研究員。

2017 年 4 月から公益財団法人日本観光振興協会総合調査研究所所長兼日本観光振興アカデミー学長を兼務．交通学研究者の立場から地域・都市の観光振興に取り組む。首都大学東京では、データを用いた地域振興事業を展開できる地域リーダーを育成する地域創生スクールのスクール長を務める。

金城 盛彦（きんじょう もりひこ）

・琉球大学観光産業科学部観光科学科教授（「観光経済学」,「観光統計学」担当）

・博士（学術：名古屋大学）

・沖縄県浦添市出身。大学進学まで沖縄で過ごす。

前東海大学政治経済学部経済学科教授（「環境経済学」,「統計学」他担当）。

『数量観光産業分析―観光学の新たな地平―数量観光分析入門』（2014），『復興ツーリズム：観光学からのメッセージ』（2013）等，環境学に関する技能，経験を活かした数量分析を踏まえた持続可能な観光振興に関する論文多数。